

平成23年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 マーベラスエンターテイメント
コード番号 7844 URL <http://www.mmv.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 中山 晴喜

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 山角 信行

TEL 03-5769-7447

四半期報告書提出予定日 平成22年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第2四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第2四半期	4,564	5.0	467	—	429	—	421	—
22年3月期第2四半期	4,347	0.2	△264	—	△300	—	△279	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第2四半期	3,456.43	—
22年3月期第2四半期	△2,396.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第2四半期	4,533	617	13.6	5,063.35
22年3月期	4,713	193	4.1	1,583.30

(参考) 自己資本 23年3月期第2四半期 617百万円 22年3月期 193百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,500	△21.5	180	—	100	—	90	—	729.45

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 6「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 ― 社（社名 ）、除外 ― 社（社名 ）
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	23年3月期2Q	123,380株	22年3月期	123,380株
② 期末自己株式数	23年3月期2Q	1,380株	22年3月期	1,380株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	23年3月期2Q	122,000株	22年3月期2Q	116,473株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）P. 5「1. (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. その他の情報	6
(1) 重要な子会社の異動の概要	6
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	6
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	6
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	6
3. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書	8
【第2四半期連結累計期間】	8
【第2四半期連結会計期間】	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）における当社グループの連結業績は、売上高4,564百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益467百万円（前年同期は営業損失264百万円）、経常利益429百万円（前年同期は経常損失300百万円）、第2四半期純利益421百万円（前年同期は純損失279百万円）となりました。

売上高におきましては、音楽映像事業において定番シリーズを中心にCD・DVDのリピー特受注が好調に推移したことに加え、デジタルコンテンツ事業において国内で発売した新作タイトルの受注が好調に推移したことが主因となり前年同期と比較して増加いたしました。

利益におきましては、売上高の増加に加え、各種固定費の圧縮が進んだことや、前年同期に純損失を計上した英国子会社の当社保有全株式を売却したこと等により、黒字転換いたしました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

尚、第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

これと併せて、従来、事業の種類別セグメント情報の「消去又は全社」の項目に含めていた営業費用のうち、役員・執行役員に係る人件費はそれぞれの各管掌セグメントへと配賦し、地代家賃及び水道光熱費については人頭基準にて各セグメントへ配賦しております。

また、以下文中の前年同期比較に当たっては、前第2四半期連結累計期間の実績を、変更後の基準に遡及して集計した後、行っております。

①音楽映像事業

音楽映像事業におきましては、アニメーションを中心とした優良コンテンツの音楽・映像商品（パッケージソフト）化とコンテンツの企画立案から二次利用までを行うマスターライセンス（映像著作権）保有作品の製作を行っております。

まず、音楽分野におきまして、平成22年上半期（平成22年1月～平成22年6月）における国内音楽ソフト（オーディオ／音楽ビデオ合計）の総生産金額は、前年同期比11.1%減の1,315億円となりました。ソフト市場が依然縮小傾向にあることに加え、有料音楽配信売上金額が前年同期比2.6%減の434億円となり、音楽市場全体の上半期実績は2年連続で前年同期を下回りました。（社団法人日本レコード協会調べ）

このような状況下、当分野におきましては「プリキュア」シリーズの企画音楽が新作・旧作リピーとともに好調に推移した他、専属アーティスト「古川雄大」、「vistlip」のCD・ライブDVD等を編成いたしました。また、新規音楽配信サイトへのコンテンツ供給が進み、音楽配信収入も大きく伸長しました。

次に、映像分野におきまして、平成22年上半期（平成22年1月～平成22年6月）のDVDソフト市場は、前年同期比14.5%減の1,017億円となりました。ブルーレイの売上金額は前年同期比209.0%増の176億円となりましたが、DVDソフト市場の減少分を補うには至らず、映像市場全体では依然縮小傾向が続いております。（社団法人 日本映像ソフト協会調べ）

このような状況下、当分野におきましては、前期より引き続き「ミュージカル『テニスの王子様』」

関連DVD、「家庭教師ヒットマンREBORN!」、「フレッシュプリキュア!」、「遊☆戯☆王5D's」、「真・恋姫†無双」、「11eyes」等の映像商品化を行った他、新たに「ハートキャッチプリキュア!」、「いちばんうしろの大魔王」、「真・恋姫†無双〜乙女大乱〜」、「祝福のカンパネラ」、「オオカミさんと七人の仲間たち」等の映像商品化を行いました。「ミュージカル『テニスの王子様』」の1stシーズン完結に伴う活況により関連DVDの受注が新作・旧作ともに好調に推移したことに加えて、「プリキュア」シリーズにおいてDVD受注及び新作映画の配分収入が好調に推移しました。

これらの音楽・映像各コンテンツの好調な実績に加えて、音楽映像事業全体として組織の合理化等による固定費の圧縮に努めたこと等により、売上高は2,164百万円（前年同期比36.1%増）、セグメント利益は437百万円（前年同期比112.5%増）となりました。

②デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業におきましては、家庭用ゲーム機向けゲームソフト及びオンラインゲームを中心としたデジタルエンターテイメントコンテンツの企画・開発・発売を行っております。

平成22年上半期（平成22年1月～平成22年6月）のゲーム市場規模は、ハード市場が875億円（前年同期比5.1%減）となったものの、ソフト市場はミリオンヒットタイトルの牽引等により1,408億円（前年同期比11.1%増）となり、ゲーム市場全体では2,283億円（前年同期比4.3%増）と前年同期を上回りました。（株式会社エンターブレイン調べ）

このような状況下、当事業におきましては、国内において、当社主力シリーズの新作「牧場物語 ふたごの村（DS）」、「NO MORE HEROES 英雄たちの楽園（PS3/Xbox360）」、版權タイトル「一騎当千XROSS IMPACT（PSP）」、「Fate EXTRA（PSP）」の5タイトルを発売し（前年同期は10タイトル発売）、特に「牧場物語 ふたごの村（DS）」の販売本数は16万本を超え、また「Fate EXTRA（PSP）」の販売本数は10万本を超えるヒットとなりました。また、海外向けに「ARCRISE FANTASIA（Wii 北米向け／邦題：アークライズ ファンタジア）」、「HARVEST MOON：Grand Bazaar（DS 北米向け／邦題：牧場物語 ようこそ！風のバザールへ）」、「NO MORE HEROES 2 DESPERATE STRUGGLE（Wii 欧州向け）」等をライセンスしました。

売上高においては、海外戦略の見直しに伴い欧州地域での自社発売を行っていた英国子会社Rising Star Games Limitedの当社保有全株式を平成22年1月に売却したことが主因となり前年同期と比べて減少いたしました。一方、利益面においては、同子会社の損失分が減少したことに加えて、国内で発売した新作1タイトル当たりの採算性が改善したことや、組織の合理化等による固定費の圧縮を行ったこと等により利益改善いたしました。

この結果、売上高は1,726百万円（前年同期比12.9%減）、セグメント利益は130百万円（前年同期はセグメント損失287百万円）となりました。

③舞台公演事業

舞台公演事業におきましては、漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした興業ビジネスを展開しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、平成21年12月から平成22年3月にかけて公演した「ミュージカル『テニスの王子様』 The Final Match 立海 Second feat. The Rivals」の後半22公演分、平成22年4月に公演した「ミュージカル『エア・ギア』 vs. BACCHUS Top Gear Remix」10公演分、平成22年5月に公演した「ミュージカル『テニスの王子様』 コンサート Dream Live 7th」11公演分、合計

43公演分の実績を計上いたしました（前年同期は102公演分の実績計上）。「ミュージカル『テニスの王子様』」の1stシーズンが平成22年5月で完結し、前年同期には計上された夏の公演の開催がなかったため、計上公演数が大幅に減少し減収となりました。一方、利益面においては、開催地の適正な選定による効率運営が実現したことに加え、1stシーズン完結に伴う公演の活況により観客動員数及び物販売上が好調に推移し、前年同期と比較して大きく改善いたしました。

この結果、売上高は674百万円（前年同期比13.1%減）、セグメント利益は97百万円（前年同期比246.9%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は前連結会計年度末に比べて6.4%増加し、4,138百万円となりました。これは主として、現金及び預金が増加したことなどによるものであります。

固定資産は前連結会計年度末に比べて52.0%減少し、395百万円となりました。これは主として、投資その他の資産が減少したことなどによるものであります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.8%減少し、4,533百万円となりました。

(負債)

流動負債は前連結会計年度末に比べて13.5%減少し、3,848百万円となりました。これは主として、その他の流動負債（未払金など）が減少したことなどによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べて7.3%減少し、67百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことなどによりです。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて13.4%減少し、3,915百万円となりました。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べて219.8%増加し、617百万円となりました。これは主として四半期純利益421百万円の計上により、利益剰余金が増加したためであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の状況は、前連結会計年度末に比べて728百万円増加し、1,602百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、866百万円（前年同四半期連結累計期間に使用した資金は167百万円）となりました。主に税金等調整前四半期純利益423百万円及びたな卸資産の減少額270百万円などによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により得られた資金は、16百万円（前年同四半期連結累計期間に使用した資金は123百万円）となりました。主に敷金及び保証金の回収による収入16百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、155百万円（前年同四半期連結累計期間に得られた資金は471百万円）となりました。主に短期借入金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におきましては、音楽映像事業における主力シリーズや、デジタルコンテンツ事業の国内新作ソフトの受注が好調に推移したこと等により、第3四半期以降に見込んでいたリピート受注による収益を前倒しで計上することができております。

また、通期の連結業績予想につきましては、第2四半期累計期間の実績に加えて、依然不透明な音楽・映像ソフト市場やゲーム市場の状況及び為替動向を踏まえ、平成22年5月10日に公表いたしました業績予想数値から営業利益のみ上方修正しております。詳細につきましては、平成22年9月27日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

①「資産除去債務に関する会計基準」等の適用

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益又は経常利益はそれぞれ1,559千円、税金等調整前四半期純利益は4,677千円減少しております。

②「連結財務諸表に関する会計基準」の適用

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第2四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,602,665	874,509
売掛金	661,302	786,366
製品	6,248	6,125
仕掛品	171,507	240,088
映像コンテンツ	219,054	156,469
デジタルコンテンツ	1,288,534	1,539,492
原材料及び貯蔵品	24,273	34,299
その他	173,440	261,014
貸倒引当金	△8,838	△8,535
流動資産合計	4,138,188	3,889,832
固定資産		
有形固定資産	106,986	132,078
無形固定資産	36,469	52,785
投資その他の資産	251,868	638,772
固定資産合計	395,323	823,635
資産合計	4,533,512	4,713,468
負債の部		
流動負債		
買掛金	332,320	463,483
短期借入金	1,900,000	2,050,000
1年内返済予定の長期借入金	8,004	8,004
未払印税	992,192	866,278
未払法人税等	6,629	5,303
賞与引当金	36,625	30,057
返品調整引当金	—	1,738
その他	572,788	1,022,908
流動負債合計	3,848,559	4,447,774
固定負債		
長期借入金	61,991	65,993
その他	5,233	6,538
固定負債合計	67,224	72,531
負債合計	3,915,784	4,520,306
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,128,472	1,128,472
資本剰余金	1,129,991	1,129,991
利益剰余金	△1,608,810	△2,033,325
自己株式	△27,726	△27,726
株主資本合計	621,926	197,412
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	△4,198	△4,250
評価・換算差額等合計	△4,198	△4,250
純資産合計	617,728	193,162
負債純資産合計	4,533,512	4,713,468

(2) 四半期連結損益計算書

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	4,347,851	4,564,886
売上原価	3,357,491	3,305,634
売上総利益	990,360	1,259,252
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	226,797	147,655
貸倒引当金繰入額	—	622
賞与引当金繰入額	51,170	36,625
広告宣伝費	491,752	311,426
その他	485,391	295,155
販売費及び一般管理費合計	1,255,111	791,485
営業利益又は営業損失(△)	△264,751	467,767
営業外収益		
受取手数料	—	1,200
その他	1,325	1,481
営業外収益合計	1,325	2,681
営業外費用		
支払利息	24,053	24,770
為替差損	10,025	16,125
その他	3,437	—
営業外費用合計	37,517	40,895
経常利益又は経常損失(△)	△300,942	429,552
特別利益		
貸倒引当金戻入額	9,291	320
その他	204	—
特別利益合計	9,495	320
特別損失		
固定資産売却損	—	1,776
固定資産除却損	3,929	1,230
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	3,118
特別損失合計	3,929	6,124
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△295,377	423,748
法人税、住民税及び事業税	1,625	2,064
少数株主損益調整前四半期純利益	—	421,683
少数株主損失(△)	△17,910	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△279,092	421,683

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)
売上高	2,272,297	2,744,345
売上原価	1,837,262	2,081,604
売上総利益	435,035	662,740
販売費及び一般管理費		
従業員給料及び賞与	105,322	69,817
賞与引当金繰入額	29,062	17,213
広告宣伝費	174,684	184,549
その他	221,959	143,660
販売費及び一般管理費合計	531,028	415,240
営業利益又は営業損失(△)	△95,992	247,500
営業外収益		
為替差益	—	1,417
受取手数料	—	600
その他	768	292
営業外収益合計	768	2,309
営業外費用		
支払利息	12,276	11,866
為替差損	6,599	—
その他	4	—
営業外費用合計	18,881	11,866
経常利益又は経常損失(△)	△114,106	237,943
特別利益		
固定資産売却益	204	—
貸倒引当金戻入額	△2,573	207
特別利益合計	△2,369	207
特別損失		
固定資産売却損	—	1,776
固定資産除却損	3,929	1,230
特別損失合計	3,929	3,006
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△120,405	235,145
法人税、住民税及び事業税	872	1,000
少数株主損益調整前四半期純利益	—	234,144
少数株主損失(△)	△3,180	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△118,097	234,144

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△295,377	423,748
減価償却費	58,980	36,682
映像コンテンツ償却額	263,835	361,224
のれん償却額	16,069	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,490	6,567
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△9,291	302
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△20,917	△1,660
受取利息及び受取配当金	△47	△18
支払利息	24,053	24,770
固定資産売却損益(△は益)	△204	1,776
固定資産除却損	3,929	1,230
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	4,677
売上債権の増減額(△は増加)	292,076	123,638
たな卸資産の増減額(△は増加)	△454,533	270,290
仕入債務の増減額(△は減少)	△101,904	△132,501
未払金の増減額(△は減少)	9,207	△284,423
未払印税の増減額(△は減少)	△65,837	125,914
未払消費税等の増減額(△は減少)	△7,253	44,935
その他の流動資産の増減額(△は増加)	114,627	98,076
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△30,758	△203,934
その他	△3,050	1,226
小計	△203,904	902,521
利息及び配当金の受取額	47	18
利息の支払額	△20,547	△31,236
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	56,569	△4,586
営業活動によるキャッシュ・フロー	△167,834	866,717
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△33,153	△2,200
有形固定資産の売却による収入	3,500	6,465
無形固定資産の取得による支出	△6,075	△3,760
敷金及び保証金の差入による支出	△88,347	—
敷金及び保証金の回収による収入	640	16,045
貸付けによる支出	△1,900	—
貸付金の回収による収入	1,660	300
投資活動によるキャッシュ・フロー	△123,677	16,850
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	2,370,432	3,100,000
短期借入金の返済による支出	△2,074,869	△3,250,000
長期借入れによる収入	80,000	—
長期借入金の返済による支出	△402,001	△4,002
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,307	△1,276
株式の発行による収入	499,865	—
配当金の支払額	△204	△54
財務活動によるキャッシュ・フロー	471,915	△155,332
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8,665	△78
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	171,737	728,156
現金及び現金同等物の期首残高	1,109,020	874,509
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,280,758	1,602,665

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	音楽映像 事業 (千円)	デジタル コンテンツ 事業 (千円)	舞台公演 事業 (千円)	計 (千円)	消去又 は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	1,608,304	1,981,324	758,222	4,347,851	—	4,347,851
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,341	—	—	3,341	(3,341)	—
計	1,611,645	1,981,324	758,222	4,351,192	(3,341)	4,347,851
営業利益又は営業損失(△)	234,904	△224,473	45,226	55,658	(320,409)	△264,751

- (注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。
2 各事業の主な製品又は事業の内容
(1) 音楽映像事業……………DVD、音楽CD、音楽原盤制作等
(2) デジタルコンテンツ事業…………ゲームソフト、PCソフト
(3) 舞台公演事業……………舞台公演

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	日本 (千円)	イギリス (千円)	アメリカ (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,877,147	422,971	47,732	4,347,851	—	4,347,851
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	150,098	—	—	150,098	(150,098)	—
計	4,027,246	422,971	47,732	4,497,949	(150,098)	4,347,851
営業利益又は営業損失(△)	158,634	△79,190	△16,904	62,540	(327,291)	△264,751

【海外売上高】

前第2四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年9月30日)

	欧州	北米	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(千円)	474,293	202,549	11,266	60,199	748,308
II 連結売上高(千円)	—	—	—	—	4,347,851
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	10.9	4.7	0.3	1.4	17.2

- (注) 1 国又は地域の区分は、地理的接近度によっております。
 2 本国以外の区分に属する主な国又は地域
 (1) 欧州……イギリス、フランス、ドイツ、イタリア
 (2) 北米……アメリカ
 (3) アジア……韓国、台湾
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社の事業については、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社の各事業部・各事業会社が取り扱う製品・サービスを集約した「音楽映像事業」、「デジタルコンテンツ事業」及び「舞台公演事業」の3つを報告セグメントとしております。

「音楽映像事業」は、アニメーションを中心とした音楽・映像商品(パッケージソフト化)とコンテンツの企画立案から二次利用までを行うマスターライセンス(映像著作権)保有作品の制作・販売を行っております。

「デジタルコンテンツ事業」は、据え置き型・携帯型ゲーム機及びソーシャルネットワークサービス向けを中心としたデジタルエンターテインメントコンテンツの企画・開発・発売を行っております。

「舞台公演事業」は漫画やアニメ、ゲームの人気作品を原作にした興行ビジネスを中心に展開しております。

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額
	音楽映像事業	デジタルコン テンツ事業	舞台公演事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,164,257	1,726,163	674,465	4,564,886	—	4,564,886
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	2,164,257	1,726,163	674,465	4,564,886	—	4,564,886
セグメント利益	437,900	130,364	97,903	666,167	△198,400	467,767

(注) 1 セグメント利益の調整額△198,400千円は、セグメント間取引消去2,850千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△201,250千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。